



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学



和歌山大学 南紀熊野サテライト 2018年度 事業総括書

2019年3月

和歌山大学 南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2018年度

目 次

1、はじめに

南紀熊野サテライト 2018年度の事業概要と課題	1
--------------------------	---

2、具体的活動成果・事業実施状況

【1】 高等教育部門／主催講座関係	2
【2】 生涯学習部門／高大連携部門	12
【3】 地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援	13
【4】 地域連携・産学官連携部門／地域からの相談／広報活動	18
【5】 本学防災対策本部分室の活動	24
【6】 運営基盤の強化／視察受入等	26

3、あとがき	30
--------	----

4、参考資料（ 広報チラシ一覧、新聞掲載資料一覧 ）	
----------------------------	--

はじめに

◆設置 13 年！南紀熊野で学んだ社会人学生が地域の中核として活躍中！

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005 年 4 月に「地域型サテライト」として設置後 13 年が経過。南紀熊野サテライトで学んだ社会人学生が地域の中核人材として活躍している。また講義を受けた学生が地域で講師として活躍するなど知識の循環や人材の育成を担う側になり、地域の産業振興、文化振興に貢献している。設置 6 年目になった南紀熊野観光塾では、地域ならではの特性を生かした産業振興に繋がり、起業をする者や地方議員から観光協会長に就任する塾生、民間企業から観光庁へ勤務する者も出ている。

東牟婁地域で開講している熊野郷土学では地元高校生が 20 名程参加し受講していた高校生が和歌山大学に進学して引き続き地域の学習をしている例もある。目的をもった人材育成として、寄附講義も受託。民間企業と自治体の協議会と実施して、地域振興に資する人材育成を行っている。

今後も「地域型サテライト」として地域と融合した高等教育機会を提供するために、自治体への大学連携状況のアンケート調査を実施。地域で学ぶ大学に求める像、課題の解決につなげる。みなべ町、田辺市にて認定された「世界農業遺産」では大学生と社会人が同じ教室、現地で学ぶなど、連携協議会の協力を得て、地域振興に資する多様で具体的な学習機会を設置している。本報告書に於いて 2018 年度事業を総括する。

◆2018 年度事業の特長・課題（※期首に定めた重点項目の取り組みから）

【事業の特長】

（1）実践力のある人材育成の促進

地方創生に資する南紀熊野観光塾を開催。紀伊半島に全国から観光を学びに来る塾となっている。

（2）高校との連携強化

大学生との共同調査、報告会を実施。地域で開講している大学講義を高校生も受講、進学に繋げている。

（3）学生・教員の地域交流活動の支援、教育研究の支援、地域情報提供

地域の声を受けて、地域情報を大学の教員や学生に情報共有、学生や教員の調査研究に連携協議会委員を通してご協力いただいている。

（4）ニーズにあった多様な学習機会を設置。（熊野郷土学、世界農業遺産、地域づくり戦略論）

体系的な学部授業を継続。広域のニーズに応えるために東牟婁地域での授業、講座の設置。

（授業 2 科目、公開講義 2 回、他 2 回/年）新宮信用金庫、東牟婁振興局、新宮市周辺自治体等の協力を得て実施。熊野地域の郷土の自然、歴史、文化の独自性から持続可能な地域振興を学ぶ「熊野郷土学」は好調。寄附講義「地域づくり戦略論」、「世界農業遺産」

【今後の課題】

（1）教育研究活動による地域発展モデルの構築と更なる連携推進で「知の循環」を目指す。

（2）学内外の支援組織体制の構築に向けて情報の共有と活用を推進。

（3）サテライトを拠点として、地域で活動する学生、同窓会組織、小中高大等の交流推進に貢献。

（4）学内外へ大学活動とサテライトの認知向上のための戦略的な広報活動。

【1】高等教育部門／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者5科目延べ9名（修士課程無し）、学部受講者6科目延べ155名（大学生、高校連携含）
合計164名（前年度比65名減、後期申請時に台風災害あり）

《平成30年度 南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧》

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士生	高校生	
大学院	前期	ジェロントロジー・スポーツ ～オトナのスポーツの楽しみ方を探る～	彦次 佳	教育学部	3	0		3
		中国語文献研究	瀧野 邦雄	経済学部	0	0		0
		地域映像製作特論 ～地域の魅力を共有する映像のカタチ～	木川 剛志	観光学部	2	0		2
	後期	現代の相続に関するさまざまな問題	吉田 雅章	経済学部	2	0		2
		暮らしの中の計測と制御の技術	幹 他4名	シス工学部	2	0		2
					合計			9

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	大学生	高校生	
学部	前期	地域暮らしの法律学A ～映画やTVを使用して理解しやすく～	吉田 雅章	経済学部	19	0	0	19
		熊野郷土学C【新宮会場】 ～郷土学からの地域振興～	此松 他6名	オムニバス	20	0	17	37
	後期	生老病死の哲学 ～今、有吉佐和子を読み直す～	天野 雅郎	教養の森	16	0	0	16
		熊野郷土学D【新宮会場】 ～郷土学からの地域振興～	此松 他8名	オムニバス	12	0	1	13
		地域づくり戦略論D	藤田 武弘	観光学部	20	22	0	42
		世界農業遺産	養父 原	シス工学部	13	15	0	28
	※オムニバス（学部複合での開催の意味）					合計		

総合計	164
-----	-----



大学院授業の様子（ビッグユー）



学部開放授業の様子（新宮信用金庫会場）

《実施概要》

①大学院科目の概要

《フィールドワークを取り入れた地域型の授業を実施》

教室での座学だけでなく、地域の実践者への聞き取りや現地踏査をするなどして学びを深めた。

「地域映像製作特論～地域の魅力を共有する映像のカタチ～」では、地方創生、インバウンド、観光映像、地域映像をキーワードに、住民が気付きにくい潜在的魅力が地域を比較不可能な魅力的な場所にすることを学んだ。また、映像を主なツールとして地域プロデュースすることに理解を深めた。「現代の相続に関するさまざまな問題」では、明治民法に触れ、遺産相続と家督相続との併存の歴史や戦後の民法改正、男女間の不平等の廃止や現在の相続問題における基本的なルールを映画やドラマを題材に学んだ。「暮らしの中の計測と制御の技術」では、身の回りの多くの電気機器、機会機器、メカトロニクス機器の恩恵と計測技術や制御技術に関連して、その原理や仕組み、応用例などについて実験機器を用いて広い視点から学んだ。「ジェロントロジー・スポーツ」では成年期以降のスポーツの多様な楽しみ方を紹介しオトナになったからできる楽しみ方、そこから広がる文化についてともに考えたほか、フィールドワークを入れ、スポーツ・プロモーションの理論を紹介した。



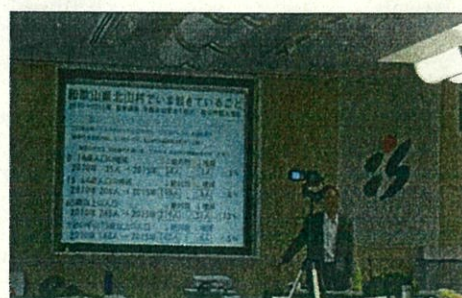
機器を用いた実験の様子（田辺市）

②学部科目の概要

《総合的・体系的な学びの機会に、2年間の継続授業科目として設置》

地域ニーズを反映した授業編成で体系的な学びの機会として設置。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について、学内研究の成果の地域還元として授業に編成して開講。

前期2科目、後期4科目の計6科目で編成。前期・後期と継続して受講した者へ「修了証」を発行するなど継続受講を推奨した取り組みも実施。体系立てた授業編成と修了証発行により、継続受講数が増加した。また、県教育委員会との連携により実施している「高校生を対象とした大学授業の公開」事業により、高校生の他、和歌山大学生、地域住民が地域の同じ教室で大学の講義を受ける機会となっている。



◆新宮会場の授業「熊野郷土学」へ高校生18名参加！

「熊野郷土学 C、D」～郷土学からの地域振興～では、昨年度に A、B で学んだ紀伊半島の豊かな風土地形が生み出した自然の恵みと、歴史文化からなる独自性から生まれ継承されてきた紀南地域の独自の産業を学びそれらを発信する手法として地域経営の視点で、住民と高校生がチームを作りグループ討議やフィールドワークを実施。地域の魅力を再確認した。

「地域暮らしの法律学 A」では、暮らしに身近な法律問題をわかりやすく取り上げ、性的犯罪と冤罪、裁判員制度、死刑と憲法、民事暴力、相続問題などを取り上げて民法の正しい知識を学んだ。中でも受

講後のニーズ調査で希望が多かった相続問題は、次年度も継続して取り上げて更に深い学びに繋げる
「生老病死の哲学」～今有吉佐和子を読み直す～では、有吉佐和子の代表作を読み解きながら、哲学とは特別に暮らしからかけ離れたものではなく、日常のなかにある哲学を分かりやすく学んだ。



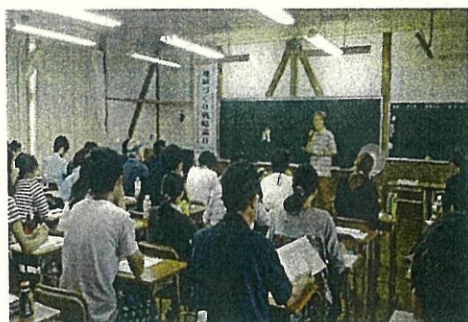
学部開放科目の様子（田辺市会場）



郷土学を学んだ後に、現地調査（新宮市内）

◆寄附講義 1：「地域づくり戦略論」（公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団寄附講義）

「地域づくり戦略論」（公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団寄附講義）は5年間の最終年度。実践者を招き、地方創生における農山村の再生手法として注目を集める都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成をテーマに掲げて理論と実践から農山村における地域づくり戦略を学んでいる。授業では、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響の教育効果も検証アンケート調査も実施されている。受講した大学生が和歌山県内で新規就農、地域での就業に繋がってきているとの報告があり高い評価を得て次年度以降も継続設置となっている。



地域づくり戦略論の授業の様子（大学生22名、社会人20名）

◆寄附講義 2：「世界農業遺産」（みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会寄附講義）

みなべ・田辺の梅システムが世界農業遺産に認定されたこともふまえ、世界農業遺産とは何か、当地の農業遺産のシステムと生態系の価値について一般的な生態学の知見も交えながら、座学と現地生態系演習により習得する。地元世界農業遺産協議会の全面的な支援のもと、将来的な農業遺産のシステムを説明活用できる人材を育成することを目的としている。みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会による寄附講座として実施。実施2年目。学生15名、社会人13名が同じ会場を受講している。最終日の報告会には、県立神島高等学校の生徒2名が見学に陪席した。また、昨年度学んで修了した社会人学生がマイスターとなり、梅林を案内したり、講師となって登壇した。



梅の栽培の現状を視察



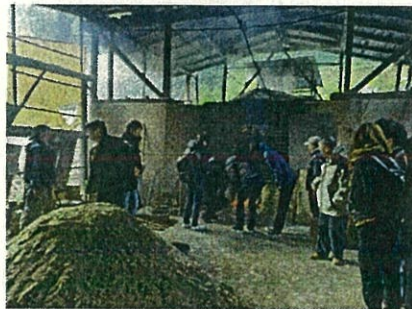
製炭林を視察



石神梅林での踏査



みなべ梅林の成り立ちを説明する元受講生



みなべ町での炭焼き小屋視察



松本氏から講義を受ける学生



世界農業遺産について学んだことをまとめるワークの様子



学生 15 名、社会人 13 名が受講 (みなべ町)



講義をする養父先生 (田辺市)

1-2 主催講座・主催研修会関係

《和歌山県での実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座&受講生募集説明会を、夏季と冬季に実施した。

東牟婁地域で授業開講することに併せて新宮信用金庫にてオープンキャンパスセミナーを実施。また、和歌山大学観光学部の教員と連携し西牟婁地域（白浜町他）、東牟婁地域（古座川町）にて南紀熊野観光塾を開催。その他、授業終了後の夕方に若年層も参加できる「サイエンスカフェ」を館内や市街地のカフェで実施している。

① 南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H30 年度後期 公開講座&受講生募集説明会》…西牟婁地域

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトキャンパスオープンセミナー」

開催日：平成 30 年 8 月 5 日（日）14 時 00 分～16 時 00 分 参加 15 名

会 場：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー（田辺市新庄町 3353-9）

内 容：記念講演「相続問題のあれこれ～遺言や遺産分割協議をできるだけ判りやすく～」

講演者：吉田 雅章 教授（和歌山大学経済学部）

講演内容：次年度開講予定の「地域暮らしの法律学B」の紹介を兼ね、相続問題を判りやすく説明した。遺言に関しては数種の形式があるが、自筆証書遺言か公正証書遺言が大半である。遺言がなければ法定相続となり、相続人による話し合いとなるが、仲良くまとめることができないことも多々ある。その場合は、家事調停となり、それでも決着できない場合は審判手続に移行するのが通常である。身内の者同士、もめている間に、下手をすれば骨肉の争いになることもある。できれば親子や兄弟姉妹の争いは避けたいものだが、そのため残される家族に納得してもらえない遺言を作ったり、民法の相続に関する内容を理解したりすることは非常に有意義だといえる。本講演では、具体的に理解しやすく遺言や法定相続について説明した。



システム工学部 原准教授の講演の様子



修了証授与の様子

② 南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H30 年度後期 公開講座&受講生募集説明会》…東牟婁会場

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトキャンパスオープンセミナー」

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会

開催日：平成 30 年 8 月 4 日（土）10 時 30 分～12 時 00 分 参加 20 名、（内、高校生 3 名）

会 場：新宮信用金庫 5 階会議室（新宮市大橋通り）

内 容：記念講演 1 「21 世紀のまちづくりを考える～和歌山県のまちづくりのデータから～」

講演者：足立 基浩 教授（和歌山大学経済学部）

講演内容：まちづくりとは、市民が自分たちのまちの将来を考え「元気」という種を植え、育てる作業である。和歌山県、そして新宮市はこれからどうなっていくのか？和歌山県は人口減少が進ん

ているが、インバウンドと呼ばれる外国人観光客は今後増えることが予想される。和歌山県の強みとは、弱みとはなにか？これからはどんな産業が栄えていくのか。和歌山県の意外なデータ、新宮市のこれからの可能性などについて参加者と一緒に考えた。

③ 南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H31 年度前期 公開講座&受講生募集説明会》…西牟婁地域

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトキャンパスオープンセミナー」

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会

開催日：平成 30 年 2 月 3 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分 参加 22 名

会 場：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー研修室 4（田辺市新庄町 3353-9）

内 容：記念講演「相続と遺言」

講演者：吉田 雅章 教授（和歌山大学経済学部）

講演内容：知っておいた方が有利な法律を、身近なトラブルを事例にしながら紹介。

支払う必要がないお金を払わされたり、自分の土地が他人のものになったりする。一所懸命親孝行したのに、親が亡くなった時、親不孝な兄弟姉妹と同じ相続分になったりもする。公正証書遺言を書いてもらったり、寄与分を主張したりすれば有利になることもある。悪いことをしていないのに無実の罪で、警察に逮捕されることもある。満員電車の中で痴漢呼ばわりされたり、凶悪事件が発生した時、偶然、防犯カメラに写ることもある。刑事事件に強い弁護士を知っていれば心強い。選挙権を持てば裁判員に選任されることもある。辞退できる場合もありえるが、刑事裁判に参加できるという絶好の機会でもある。また、商売をしていたら思わぬ嫌がらせを受けることもある。警察に相談に行っても民事不介入と言われる場合がある。民事事件の場合、消費者センターや弁護士さんに相談に乗ってもらうのが得策である。講演では以上のような内容を紹介。



記念講演会場の様子



授業の内容を紹介する様子

1-3 サイエンスカフェ関係 / 高大連携部門

《夕方をメインに開催！幅広い世代が参加する「サイエンスカフェ」など、多様な学習機会を設置》

受講ニーズアンケートから、「気軽に参加できる講座」「夕方仕事終わりに参加できる講座」をしてほしいとの声が多かったため、堅苦しい講演会のスタイルではなく、お茶を飲みながら参加者と研究者が語る場として、自由に質問できる手軽さから毎回定員を超える参加者を得てきた。専門家による話題提供の後、参加者が自由に質問する形式で気軽に参加できる。会場も会議室ではなく市街地のカフェを利用。身近に触れるサイエンスを楽しく学べる学習機会として設置。気負いしないサイエンスカフェへの参加経験から、和歌山大学の研究内容やサテライトで開講している大学の講義に関心を持ってもらい、開設の大学院科目や学部開放授業へのステップアップ受講にも繋がっている。

① ジオカフェ…高校生対象【新宮会場】

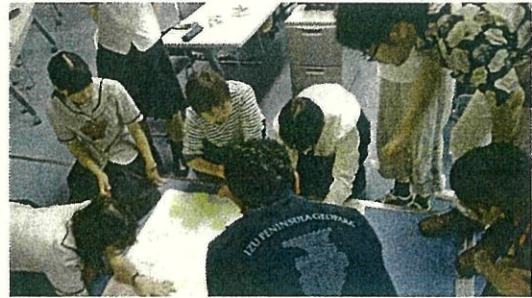
講演名：伊豆半島、襲来。～紀伊半島は伊豆半島に勝てるのか！？～

開催日：平成 30 年 7 月 28 日（土）10 時 30 分～12 時 00 分 参加 20 名

会 場：新宮信用金庫 5 階会議室（授業会場） 進行ナビゲーター：観光学部中串准教授

講演者：伊豆半島ジオパーク鈴木雄介氏

内 容：今年4月、伊豆半島はユネスコ世界ジオパークに認定された。同じ半島である南紀熊野ジオパークの大先輩に当たる伊豆半島ジオパークが誇るスーパー伝道師・鈴木雄介さんと一緒にサイエンスカフェを楽しんだ。



高校生を対象にサイエンスカフェを実施する様子

1-4 南紀熊野観光塾

《南紀熊野観光塾第6期を実施》

和歌山県「南紀熊野地域」における、観光産業従事者及び、地域活動者を対象として、「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広める観光カリスマ」の山田桂一郎さんを塾長に持続可能な地域経営を考えて自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダー的存在となる人材育成を行うための塾として開講。塾を通して広域連携の人財交流の輪を広げることで持続可能な地域振興を推進することを期待。「選ばれ続ける地域」をモットーに南紀熊野のあるべき姿をみんなで考え魅力的で持続可能な地域づくりの仕組みを担う中核的な人材を育成している。和歌山大学観光学部生や他大学の学生も参加。

◆概要

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、共催：和歌山大学観光学部、後援：和歌山県

目的：持続可能な地域経営、観光を担う人材養成と塾生同士の繋がりで広域地域の連携を目指す

構成：塾講義及びグループ討議、講評。3つの参加スタイルで実施（基礎講習、基調講演、塾生講習）

◆基礎講習コース平成 30 年 11 月 29 日、11 月 30 日(金)

会場：和歌山県立情報交流センター ビック・ユー

対象：自治体職員等、観光事業者、一般住民（全部の回に参加する意欲のある方）

◆塾生講習コース平成 31 年 1 月 10 日、11 日 古座川町月野瀬温泉ぼたん荘いろり館

対象：塾生、塾生の紹介者、講師紹介者、学生（全部の回に参加する意欲のある方）

会場：和歌山県内 西牟婁地域、東牟婁地域にて開催

◆南紀熊野観光塾 第6期 基礎講習コース

開催日：平成 30 年 11 月 29 日（木）、11 月 30 日（金）

会 場：和歌山県立情報交流センター ビック・ユー 多目的ホール、研究室4、研修室2

テーマ：「なぜ、地域振興に観光が必要なのか」

講 師：和歌山大学客員教授山田桂一郎塾長、西谷雷佐講師 森成人講師

和歌山大学観光学部出口竜也、竹林浩志、教育学部此松昌彦

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト、共催：和歌山大学観光学部、後援：和歌山県

内 容：南紀熊野地域で観光商工業の従事者や自治体職員、地方議員、和歌山大学観光学生と県外からは札幌、滋賀、兵庫、佐賀、岐阜下呂、と全国の観光商工業従事者や自治体職員等、幅広い世代の

方が参加。「ローカルカフェ」では地域の課題や良さなど個々の想いを色紙に綴り、そこからディスカッション。雰囲気は大喜利。個人ワークや論点整理と5年の取り組みと参加者への聞き取りからインプットとアウトプットを織り交ぜた構成にして理解しやすい工夫をした。塾参加者からは好評を得た。口コミから多数ご参加いただき、全国から募集定員を超える申込みを得た。

《基礎講習カリキュラム》

11月29日(木) 1日目

開塾式、趣旨説明

「選ばれ続ける地域とは？」～なぜ、地域振興に観光が必要なのか？～

塾長講演「広域連携の重要性とそれを支える仕組みとは？」

「マーケットを捉える仕組みから見える今後の展望」

論点の整理、塾長講演「地域ならではの素材の見つけ方、みがき方」

夕食交流会、夜なべ談義(希望者宿泊)

11月30日(金) 2日目

塾長講演「マーケティングと地域内経済循環」

講師講演「現状認識とマーケティングの重要性を知る」

論点の整理、個人ワーク、ローカルカフェ 参加者と講師の意見交換タイム

塾長講演「次なる一歩に向けて」閉塾式、基礎講習修了証授与、記念撮影



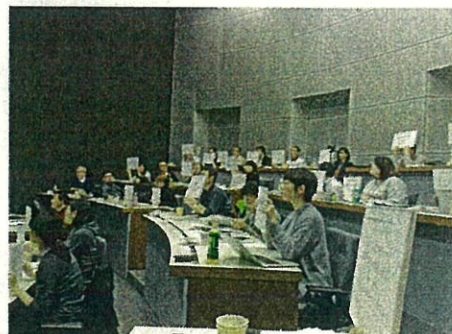
熱心に聞く塾生



講師との意見交換



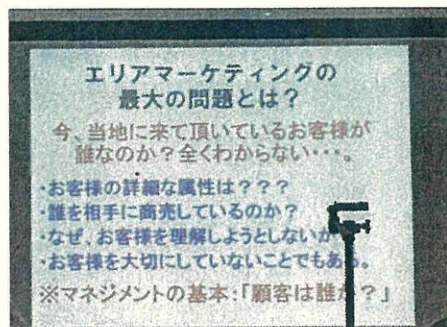
地域の経済内循環の状況を学ぶ



フリップで参加型の塾



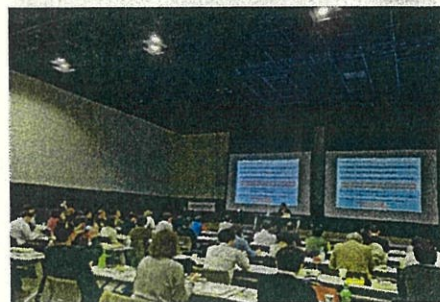
田辺市の状況



地域経営、マーケティングの課題を学ぶ



西谷講師



多目的ホールの様子



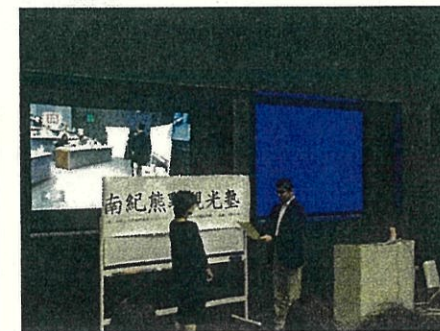
塾の様子



基礎講習参加者



会場の様子 (大学生も参加)



修了式の様子

◆南紀熊野観光塾 第6期 塾生講習コース

開催日：平成31年1月10日（木）、11日（金）

会場：古座川町 南紀月野瀬温泉ぼたん荘 いろり館

テーマ：「地域ならではの商品のつくり方とは」

講師：山田桂一郎塾長（JTIC.SWISS 代表、観光カリスマ、日本エコツーリズム協会理事、和歌山大学客員教授）、出口竜也（和歌山大学観光学部観光経営学科教授）、竹林浩志（和歌山大学観光学部観光経営学科准教授）、此松昌彦（和歌山大学教育学部理科教育教授）
多田稔子講師、西谷雷佐講師、森成人講師、細井講師

内容：地域ならではの商品のつくり方をテーマに、地元産品を活用した取り組みについて学んだ。塾長講演の後、受講前に提出したエントリーシートを塾生が発表して皆で共有。その後に講師から講評があった。夕食は地元食材を活用した料理を深海料理長から紹介。午後から企画改善の発表、グループトーク。修了証書授与式、記念撮影を行った。

《塾生講習カリキュラム》

平成31年1月10日（木）1日目

第6期観光塾開塾式・ガイダンス

塾長講演「選ばれ続ける古座川になるために」

講師講演「着地型観光で選ばれる商品とは？」田辺市、東北の事例

講師による講評、論点整理 講評意見交換、論点整理

塾長講演「地域を支える商品づくりとは？」

塾生の企画発表、講師講評、論点整理、個人ワークの作成

夕食交流会、夜なべ談義（希望者宿泊）

1月12日（金）2日目

塾長講義「選ばれるとはどういうことなのか？ターゲットは明確か？」

講師講演「気仙沼クルーカード導入の目的と課題」

トークセッション「地域づくりにおけるマーケティングの本質とは」

論点整理 各自の企画事業への落とし込み、ローカルカフェ、企画改善の発表

塾長講演「持続可能な地域を実現するために」

閉塾式、塾生講習修了証授与式、記念撮影



南紀熊野観光塾 塾生講習開塾式の様子 トークセッションの様子



地酒を飲みながら語り合い



持ち寄ったプランを発表

◆南紀熊野観光塾 基調講演

講演名：選ばれ続ける古座川になるために

日時：平成31年1月11日(木) 13時10分～14時30分

場所：南紀月の瀬温泉ぼたん荘いろり館 参加：40名

講師：和歌山大学山田桂一郎客員教授

内容：南紀熊野観光塾の開講を記念して基調講演を実施。



基調講演の様子（古座川町南紀月野瀬温泉ぼたん荘）講演する山田桂一郎塾長（和歌山大学客員教授）

南紀熊野観光塾は、ロンリープラネットで訪れたい地域、世界5位の紀伊半島で実施される「観光創生」を学ぶ塾。民間企業、宿泊業、ガイド業、自治体職員、大学生、商工観光担当者、ガイド、一次産業従事者、地方議員等、幅広い塾生が同じ教室で学んだ。募集定員15名に対して、全国から定員を超える参加者を得ている。北海道、岐阜県、京都府、滋賀県、鹿児島、大阪府、兵庫県からも自治職員や観光コンサル業の事業者等の参加があった。

【2】生涯学習部門

2-1 生涯学習関係/講座・セミナー

《県教育委員会や地域連携・生涯学習センターと連携、地域課題に寄り添う取り組みに参画》

地域において保育や子育て支援等の仕事に関心を持ち、子育て支援分野の各事業等に従事することを希望する者に対し、多様な子育て支援分野に関して必要となる知識や技能等を修得するための全国共通の研修制度を創設し、これらの支援の担い手となる「子育て支援員」の養成を図ることを目的に開講された子育て支援研修の紀南地域での広報支援などを行った。

【3】 地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援

3-1 地域研究関係

《学内の研究プロジェクトや教職員の地域活動の支援、学生の現地活動の支援を実施》

—昨年度に和歌山大学教育改革推進事業 OSM と LocalWiki を活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業での現地活動の支援を実施した。その後研究成果を基に代表教員等と企画して南紀熊野サテライト科目「熊野郷土学」でこの手法を習得する授業を実施。東牟婁地域にもリージョンが誕生した。教育プロジェクトで学習した学生も学習のサポート役として参加して地域ガイドや高校生に技術を伝えて学びを深める機会となった。

《和歌山大学教育改革推進事業とは》

オープンソースの地図である OSM (open street map) と地域情報をウィキペディア形式で記事化できる LocalWiki を複合的に活用した地域資源の発掘と情報発信を行う作業を通じて、持続可能な社会を担う人材育成を目的とした事業で、本学学生との協働で学生では得られない地域資源の情報の獲得をはかるとともに外部者の視点を持つ本学学生による地域資源の評価を地域住民に提供することで地域資源の価値のとらえ直しを行う機会となった。同地域で過去に作成した地図のデータ入力によるデジタル化が実現している。人口減少による担い手が課題となっている市街地の祭りにも参加してこの技術を伝えている。インターネットのサイトを活用してウェブ上に情報を集積、世界に発信することで、文化の情報蓄積と観光利用にも転用できる。初年度は学内の事業で実施、その後田辺市大学連携地域づくり事業で継続中。



田辺祭の学生レポートサイト誘導する QR コードをマップに記載 祭人から聞き取りする学生

3-2 本学授業、学生との連携・支援

《学生の調査や研修時に、地域情報を紹介するなどの活動支援を実施》

南紀熊野地域でのフィールドワークや、各種企画の相談や現地調整等、教員や学生の地域での教育研究の現地支援を実施した。

◆和歌山大学経済学部新入生合宿研修 in 南紀田辺「旅スルタナベ」

開催日：平成 30 年 4 月 7 日（土）～8 日（日）11 時 40 分～15 時頃まで市内を散策

会 場：田辺市扇ヶ浜カッパーク、田辺駅周辺の商店街や市街地

内 容：和歌山大学経済学部新入生と和歌山大学教職員等 320 名が参加。

3つのグループに分かれて田辺市街地を散策するウォークラリーを開催した。市街地の数箇所にまちの歴史や民俗に因んだクイズパネルを設置して、クイズラリーを実施。大学生が店主に話を聞きながらクイズを解くことで、まちの魅力を発見する取り組みとなった。田辺市企画課、和大大 OB の方の協力を得て開催。※4 月 6 日 和歌山大学教育学部新入生合宿研修は白浜町にて開催。



田辺市扇ヶ浜カッパークでの到着時に田辺市職員の皆様に受け入れ頂く様子



田辺駅周辺の商店街の状況や、商店街で活躍する卒業生や塾生と話す引率教員の様子

◆和歌山大学経済学部学生が調査したまちあるきマップが優秀賞を受賞

題名：「マップで応募！第2回地方創生大賞」優秀賞受賞！マップの舞台：和歌山県田辺市、
 調査：経済学部ECコース学生（引率教員：経済学部藤田先生、岡田先生他）、南紀みらい、田辺市
 マップ編集：和歌山大学南紀熊野サテライト古久保綾子（あがら☆たなべえ調査隊員として協力）
 内容：マップで応募地方創生大賞にて全国から募集した200点を超えるまち歩きマップの中から優
 秀賞を受賞した。地元の人がおススメのランチスポットを和歌山大学の学生と連携して発掘、
 調査しマップに纏めた。裏面には、3つのコースのおススメまち歩きルートを鉄道路線に見
 立てて紹介。ディープな田辺を満喫できるマップ。応募者：あがら☆たなべえ調査隊



（裏面）まちあるきの散策コースをすごろくで掲載 （表面）ランチマップを掲載

◆田辺市大学連携地域づくり事業（採択2件の申請と現地支援を実施）

事業趣旨：大学等との連携によって学生を本市各地域に呼び込むとともに、地域が抱える人口減少や過
 疎化に伴う様々な課題に対する解決策を地域住民らとともに考え、地域の持続と振興に資す
 ることを目的に実施するものであり、大学等が実施する地域や本市行政組織と連携した実践
 的な活動等に対し支援を行う。

事業名：「田辺祭を世界に発信！」OSMとLocalWikiを活用した地域資源の発掘と情報発信による
 リーダー育成事業

実施日：平成30年7月24日（火）～25日（水） 場所：田辺市街地（南新町）

引率：和歌山大学観光学部出口竜也、和歌山大学紀州経済史文化史研究所吉村旭輝、COC十大坪CD、

合計教員3名、学生6名（観光学部5名、教育学部1名）が参加、共同調査として、県立神島高等学校写真部の高校生約20名・県立田辺高等学校地域学習の高校生2名（後に和太へ進学）

内容：「田辺祭」の様子をインターネット上の地図であるOSM (Open Street Map)と、地域情報をウィキペディア形式で記事化できるLocalWikiを複合的に活用して記事化する。作業を通じて、① 田辺祭への参加や住民との交流で得た各種情報を発信、②持続可能な社会を担うリーダーの育成、③活動を通じて地元愛の醸成を行うこと等を主たる目的とした。過去5年間にわたる田辺市での事業実践をもとに、地域住民等や高校生、大学生の交流をより一層推進し、多くの記事を収集するだけでなく、そのノウハウを地域住民、高校生に移転することで、継続的に実施できる体制を構築した。当日は和歌山大学生が田辺祭に参加。住民らの手伝いをしながら祭りの歴史や行事などを調べ、インターネットを通じて紹介。成果は観光マップにQRコードを付けて配布。報告会を地域で行った。11月23日ビッグユーンにて開催された「長唄と田辺祭の囃子」に、北新町笠の内と南新町笠の内の内が参加し、祭囃子を演奏。田辺市大学連撃地域づくり事業 報告会「田辺祭を世界に発信！」では、和歌山大学観光学部と田辺高校生による、田辺祭りの調査報告、神島高校写真部の写真展なども開催した。



田辺祭を調査する高校生の様子（田辺市街地）



町内会館を借りてネットに入力する様子



聞き取りをする大学生



高校教諭と大学教員で事前打合せ



作成ウェブページ



発表する神島高校写真部の生徒



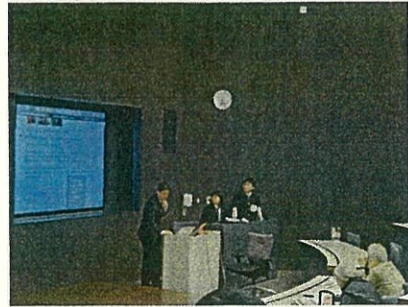
南新町皆様が演奏する様子



北新町の皆様が演奏する様子



合同で調査した高校生と大学生



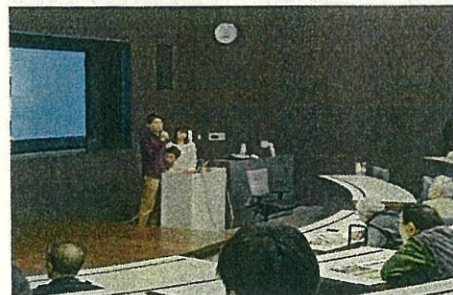
発表する田辺高校生



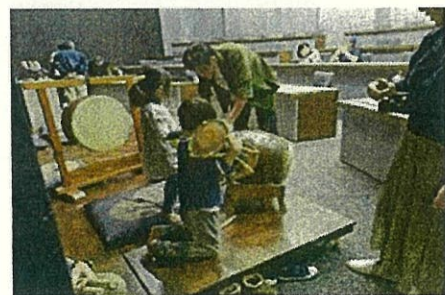
お世話になった町の方を招いて実施



発表する和歌山大学生



お世話になった町内会の方へ現地報告会を行う学生の様子 楽器に親しむ子供達



3-3 大学同窓会組織との連携活動

《受講生、修了生、塾生の活動を継続して支援》

地域の同窓生の多様な業種世代の交流と連携を深めるための、企画講座や提案事業等の活動を支援。

◆南紀熊野観光塾 情報交換会

開催日：平成 30 年 10 月 20 日（木）17 時 45 分～19 時 会 場：田辺商工会議所 3 階会議室

内 容：南紀熊野観光塾第 1 期生～第 5 期生の修了生が参加して、観光塾修了後の自主的な活動の進捗を塾生や講師に紹介する情報交換会を実施。田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町、古座川町から幅広い地域の塾生が参加。活動報告に対して、和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授山田桂一郎塾長、観光学部出口先生、竹林先生、教育学部此松先生が講評。更なる活動と塾生同志の連携を期待。現在 5 年目を迎え、修了生は各地で中核となって活動中。



発表した塾生（南紀みらいの和田さん、北山村役場の荒井さん、本宮の大竹さん）

◆ブラ藻谷 in 那智勝浦町 散策

場 所：南紀月野瀬温泉ぼたん荘 広間

内 容：熊野はひとつの会の呼びかけで藻谷浩介氏とまちあるきを実施。インカムをつけて那智勝浦町内を散策、熊野市、新宮市、那智勝浦町、太地町、上富田町、田辺市から、商工会、観光、水産、大学、金融、行政、議会等、幅広い業種の参加者が学んだ。



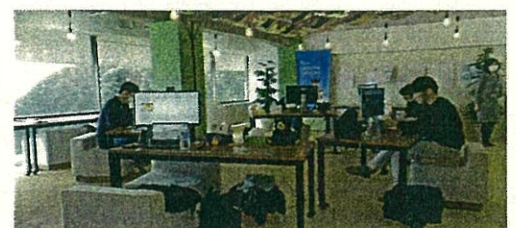
◆地域まるごと観光経営～地域の稼ぐ力を引き出すためのケーススタディ～

日 時：平成30年2月頃

場 所：スポーツセンター 多目的ホール

内 容：地域視察を基に、地域の魅力を知り、稼ぐ力を引き出すことを目的に実施されたもの
南紀熊野観光塾生数名に紹介して参加を促した。

分科会③：13時30分～ 分科会④：14時45分～



備長炭公園視察（田辺市）

IT企業視察（白浜町）

◆古座川観光協会 熊野桜フェアのトークセッションに参加

日 時：平成30年3月頃

場 所：古座川町南紀月野瀬温泉ぼたん荘 ロビー

内 容：観光協会発足と観光振興の展望、紀南地域の現状や今後の展開を意見交換した。塾生が企画。
100年ぶりに発見された新種の桜「クマノサクラ」の植樹も行った。



観光商品の企画についての意見交換を行う塾生（南紀月野瀬温泉ぼたん荘）

【4】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談／広報活動

4-1 大学との地域の連携・協働推進

〈企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施〉

地域課題解決に向けて学内外の連携、協働を推進。学内の教育支援フォーラムの配信講義への協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会への活動支援を実施した。

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催サポート
- ③高等教育機関コンソーシアム和歌山等の企画提案事業の南紀熊野地域説明会支援。
- ④「南紀熊野ジオパーク」推進協議会関連への活動協力を継続実施。

◆第77回～第81回 和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラム開催支援

和歌山大学の会場より大学教員が県下4市の各会場にテレビ中継（きのくにe-ネット利用）で講義を結び、「発達障害のある子どもの家族への心理的支援について～診断から就学までの早期家族支援～」をテーマにした授業講義を同時期に中継した。講演後には、特別支援教育及び障害者福祉の近年の動向をご紹介し、ネットでのテレビ会議システムを利用して、会場参加者とディスカッションを行った。

南紀熊野サテライトでは、このネット中継講義やフォーラムの開催支援を毎年行っている。

第77回 実施概要

日 時：平成30年6月27日（水）18時15分～20時15分

場 所：①和歌山市：和歌山大学システム情報学センター1F第2演習室

②田辺市：和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユース研修室4

③新宮市：みくまの支援学校 会議室 ④橋本市：きのかわ支援学校 会議室

進 行：和歌山大学教育学部教授 江田裕介

講 演：①「地域で学ぶ、地域へ伝える、ICT導入の教育実践」

和歌山県立紀伊コスモス支援学校 海野 圭子氏

②「自閉症・情緒障害特別支援学級（中学校）におけるiPadの活用」

和歌山市立河北中学校 西本 陽子氏

③「重度肢体不自由児の教育における教材・教具としての ICT 活用」

和歌山県立さくら支援学校 正木 芳子氏

内 容：「特別支援教育における ICT の活用—学習活動への参加を支援するツールとして—」をテーマに和歌山大学会場より講演し、各会場とテレビ中継で結んだ。県内の学校で積極的に ICT を授業に導入している和歌山県立紀伊コスモス支援学校海野圭子氏、和歌山市立河北中学校 西本陽子氏、和歌山県立さくら支援学校 正木芳子氏をお迎えして授業の実践報告を実施。タブレット PC やスマートフォン、コンピュータやインターネットといった情報手段は、障害のある児童の学習活動やコミュニケーションを補助する支援技術として、さまざまな活用効果が期待できる。読むこと、書くこと、話すこと、聞くことなど、障害による活動の困難を補い、残存機能の活用を促す効果があるほか、施設や病院、家庭といった離れた場所にいる児童を相互に結び、交流や共同学習を発展させることにも有用。ICT はインクルーシブ教育の時代に欠かせない教育ツールといえる。和歌山県内の学校で、ICT を導入している実践報告を中心に身近な授業のアイデアを紹介した。

第 78 回 実施概要

日 時：平成 30 年 8 月 29 日（水）午前 10 時～12 時（受付 9 時 30 分～）

場 所：①和歌山市：和歌山大学 システム情報学センター 1 F 第 2 演習室

②田辺市：和歌山県立情報交流センター（ビッグ・ユー） 研修室 4

③新宮市：みくまの支援学校 会議室 ④橋本市：きのかわ支援学校 会議室

講 演：「発達障害ペアレント・メンターの養成研修・相談活動について—和歌山県の取り組みを交えて—」

講 師：和歌山大学教育学部竹澤大史講師

大学院教育学研究科/和歌山ペアレント・メンター協会 南方正之氏

内 容：和歌山大学教育学部竹澤大史が担当。「発達障害ペアレント・メンターの養成研修・相談活動—和歌山県の取り組みを交えて—」をテーマに和歌山大学会場より講演、各会場とテレビ中継で結んだ。

第 79 回 実施概要

日 時：平成 30 年 9 月 26 日（水）18 時 15 分～20 時 15 分（2 時間程の予定）

場 所：①和歌山市：和歌山大学システム情報学センター 1 F 第 2 演習室

②田辺市：和歌山県立情報交流センター（ビッグ・ユー） 研修室 4

③新宮市：みくまの支援学校 会議室 ④橋本市：きのかわ支援学校 会議室

講 演：発達障害のある子どもの二次障害の予防と回復を考える

「二次障害に陥った発達障害のある生徒たちの対応とその後」

講 師：和歌山大学教育学部 武田鉄郎、大学院教育学研究科 北岡大輔氏、和歌山大学附属特別支援学校・教諭 三木理恵子氏

内 容：「発達障害の二次障害、予防等に関する基本的な考え方」を概説。発達障害のある子どもたちは、誤解を受けて差別や偏見、いじめの対象となりやすく、「社会的障壁」により不登校や心身症等、日常生活や社会生活に大きな制限を受けることが少なくない。研究では、小中学校から特別支援学校の中学部・高等部に進学してくる二次障害を抱えた生徒たちの実態把握を数年間にわたり実施。これらの生徒の多くが心的外傷（トラウマ）を抱え、不適応な状態にあることを明らかにした。また、和歌山大学附属特別支援学校高等部では、7 年前から発達障害のある生徒の適応を促進する指導を実践。二次障害に陥った子どもたちが、本来の自分を取り戻し成長していく過程におけるカリキュラムであり、様々な活動を通して生徒同士、生徒と教師の関係性を高めて信頼関係の再構築を目指すもの。同時に、自尊感情を高め、自己効力感を高めることを目指す取り組みから回復力が高まることも期待できたと報告した。

第80回 実施概要

日 時：平成30年10月24日（水）18時15分～20時15分

場 所：①和歌山市：和歌山大学システム情報学センター1F第2演習室

②田辺市：和歌山県立情報交流センター（ビッグ・ユー）研修室4

③新宮市：みくまの支援学校 会議室 ④橋本市：きのかわ支援学校 会議室

講 演：「知的障害特別支援学校での教科学習—和歌山県の特別支援学校に対するインタビュー調査と和歌山大学教育学部附属特別支援学校での実践報告—」

進 行：和歌山大学教育学部准教授古井 克憲

講 師：和歌山大学附属特別支援学校高等部小畑伸五氏、小学部清水祐野氏、中学部松下敦也氏、高等部 辻岡麻起子氏

内 容：現在、知的障害特別支援学校では、教科学習とその在り方を検討していくことが求められている。特別支援学校学習指導要領等の改正のポイントとして「障害のある子供たちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園・小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視」「知的障害者である子供のための各教科の内容を充実」が挙げられた。教科学習に対するこのような課題に対して、特別支援学校を対象にした教科学習に関するインタビュー調査の結果と、和歌山大学教育学部附属特別支援学校での教科学習の実践を紹介。「知的障害のある子どもの教科学習」を研究主題として授業づくりの取り組み調査も実施した。

第81回 実施概要

11月28日（水）

日 時：2018年11月28日（水）午後6時30分開始（2時間程の予定）

場 所：①和歌山市：和歌山大学 システム情報学センター 1F第2演習室

②田辺市：和歌山県立情報交流センター（ビッグ・ユー） 研修室4

③新宮市：みくまの支援学校 会議室 ④橋本市：きのかわ支援学校 会議室

講 演：「音楽療法の視点を取り入れた自立活動の実際」

講 師：和歌山大学教育学部特別支援教育学教室 山崎由可里

和歌山大学教育学部音楽教育教室 上野智子氏、菅 道子氏

内 容：「音楽療法の視点を取り入れた自立活動の実際」をテーマに、みくまの支援学校より講演し、各会場とテレビ中継で結んだ。特別支援学校や特別支援学級で取り組んでいる、音楽療法的な視点を取り入れた活動を実践を交えて紹介した。

申 込：不要 対 象：教育関係者

会 場：会場1：和歌山市：和歌山大学 システム情報学センター1F第2演習室

会場2：田辺市：和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー研修室4

会場3：新宮市：みくまの支援学校 会議室、会場4：橋本市：きのかわ支援学校 会議室

主 催：和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラム事務局

講 師：和歌山大学教育学部特別支援教育学教室江田裕介、武田鉄郎、山崎由可里、古井克憲、竹澤大史

講 演：「発達障害のある子どもの家族への心理的支援について - 診断から就学までの早期家族支援 - 」

講 師：和歌山大学教育学部古井克憲准教授、和歌山大学教育学部講師竹澤大史講師

内 容：発達障害のある子どもへの支援において、最も身近な存在である家族への支援は大きな意義を持ち、子どもへの支援と同様に家族への支援においてもライフステージに沿った早期からのアプローチが重要だと考えられている。発達障害のある子どもの家族への支援を実践研究の内容を交えて紹介。特別支援教育及び障害者福祉の近年の動向を紹介。教育・支援についてディスカッションを実施。

◆2018 年度 ASLE Japan / 文学・環境学会 全国大会 開催支援

開催名：「ASLE-Japan / 文学・環境学会 全国大会」

開催日：平成30年9月1日～2日 参加：約80名

場 所：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー研修室2 対象：教職員、学生及び一般

主 催：文学・環境学会

担 当：和歌山大学教育学部今村隆男先生

内 容：文学における自然・環境に関する内外の研究情報を交換し共有することを目的に1994年に発足。自然や環境を文学の観点から検討すること、文学研究に自然環境の問題を導入することにおいて積極的に役割を果たすことを目的にした学会。この学会の全国大会の開催地として会場申請や現地情報の提供等の支援を実施。学会では、南方熊楠を取り上げて船上から神島への現地視察も行った。



文学・環境学会の会場の様子（田辺市ビッグ・ユー）

◆木の国わかやま木育キャラバン in 田辺市 共催

開催名：「木の国わかやま木育キャラバン in 田辺市」

開催日：平成31年2月23日（土）～24日（日）10時00分～16時00分

場 所：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー 全館貸し切り

参 加：土曜日…約1200人、日曜日…約1800人、両日で3000人参加

主 催：わかやま木育キャラバン実行委員会

内 容：紀の国わかやまを再び「木の国」にするべく、未来の木材ユーザーの子供達に木育を体感してもらおう企画。紀州材活用での地域振興を目的に開催。シンポジウムでは教育学部幼児教育の高橋多美子准教授が司会を務め、木育を推進する企業や実行委員長、東京おもちゃ美術館の副館長等が木育で育まれる郷土愛と地域振興に関して先進事例を紹介した。館内では木材に触れあえる企画やカービングショー、ワークショップ等が多数開催され、多くの親子連れでにぎわった。当日のアンケートからは、わかやまの木や木育に関心を持った、次回も参加したいとの声があった。サテライトでは、事務所を開放して紀州材のおもちゃで遊べるコーナーを設置。館内の図書館と連携して、木育にちなむ図書の企画展を実施した。

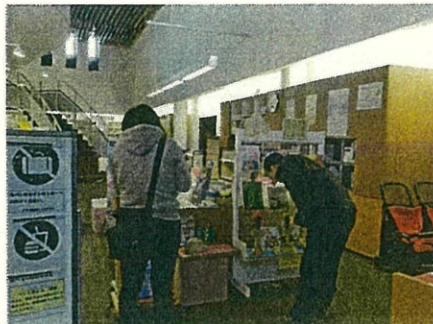


和歌山大学サテライト事務室前



当日、木に触れあう子供達の様子

事務室内で子供が遊ぶ様子



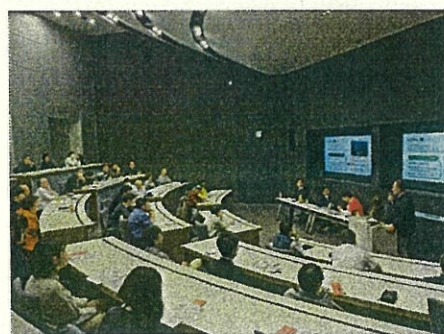
県立紀南図書館での企画展示の様子



東京おもちゃ美術館の展示会場



ワークショップ等の様子



シンポジウムの様子



シンポジウム登壇者

4-2 きのくに活性化センターとの連携

《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動に参画》

きのくに活性化センターと連携して、地域課題や地域資源について研究調査活動を実施している。

きのくに活性化センターの事業概要は、田辺、新宮両広域圏市町村組合（紀南地方全自治体）や田辺、新宮商工会議所、JA 紀南、和歌山県、和歌山大学（南紀熊野サテライト）の参画による調査研究機関として紀南地方の諸課題に関するリサーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案・協同で実践、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出を行っている。

- ① きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画。
- ② きのくに活性化センター事業へ参画。

◆上富田町での茶会運営に協力

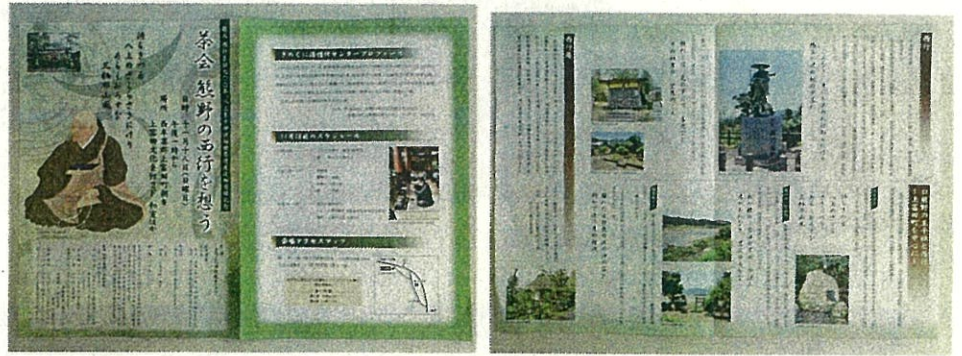
開催名：西行生誕 900 年記念茶会「熊野の西行を想う」

日時：平成 30 年 11 月 18 日（土）10 時～17 時

主催：きのくに活性化センター

会場：八上神社、上富田文化会館、他

内 容：西行生誕 900 年を記念して、西行が歌を詠んだ八上神社での献香、献茶、茶席、上富田文化会館での二席、拝服席等を実施。当日の運営協力を行った。県立熊野高等学校茶道部も協力。



「茶会 熊野の西行を想う」の茶会リーフレット



上富田文化会館での茶会席の様子



きのくに活性化センター総会の様子

「news きのくに」へ活動を投稿

4-3 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体を作成した》

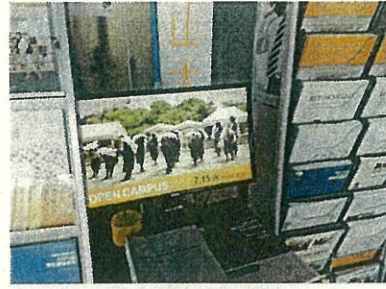
大学の入試情報や学生募集要項の他に、大学の雰囲気や学生生活が伝わる学生広報グループ情報誌やオープンキャンパス、主催講座チラシ等の配架や、学内広報室と連携して大学内のサークル紹介や活動の動画を配信できる「デジタルサイネージ」の設置を継続的に行った。南紀熊野サテライトホームページでは活動紹介を頻回に行った。南紀熊野サテライトと大学の紀南地域の取り組みを分かりやすく紹介したパンフレットを配布。募集チラシにエントリーしやすいQRコードを付すなど学内外への情報発信強化を実施した。

《広報活動の取り組みの事例》

- ① 入学者選抜要項・教員免許状更新講習などの案内冊子の提供や相談対応。
- ② 本学広報室と連携して紙媒体・本学ホームページを通じた広報を実施。
- ③ 学内の広報室と連携して、学生活動動画をネット配信できるデジタルサイネージを設置。
- ④ ホームページ、SNSの更新回数の増加。
- ⑤ 地元ラジオ番組に出演して南紀熊野サテライトの活動をPR、受講生募集告知等を行った。



教員免許状更新講習募集要領冊子の配布



本学広報室のデジタルサイネージ



申込メール QR コードを付けたチラシ

【5】本学防災対策本部分室の活動

5-1 防災、減災教育の推進

《防災教育の企画の広報協力を実施》

平成 23 年東日本大震災・紀伊半島豪雨災害支援対策本部の分室として、南紀熊野サテライトが位置付けられて以降、学内の防災関連の研究調査事業の現地支援や共同研究、研究報告会の実施協力を実施。

◆本学災害科学教育研究センターの防災シンポジウム開催 広報支援等の現地支援

開催名：防災・日本再生シンポジウム

「災害後の復旧・復興へ～学校・地域と大学がとにもできること～」

開催日：平成 30 年 10 月 13 日(土)13 時 00 分～16 時 00 分 参加：約 60 名

主催：国立大学法人和歌山大学 共催：国立大学法人お茶の水女子大学 一般社団法人国立大学協会

後援：和歌山県 和歌山県教育委員会 田辺市 田辺市教育委員会

会場：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー研修室 1、展示会場研修室 2

内容：【シンポジウム】

講演 1：被災地における理科教育支援と災害時にも途切れない教育システムづくり

講師：貞光千春氏（お茶の水女子大学特任准教授）

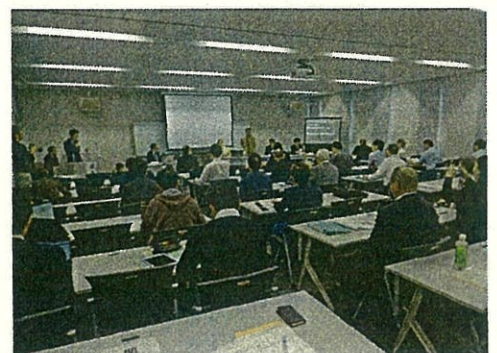
講演 2：大規模災害後の情報収集としてドローン空撮とクライシスマッピング

講師：古橋大地氏（青山学院大学教授、和歌山大学教育研究アドバイザー）

【パネルディスカッション】「学校・地域と大学がとにもできること」

登壇：千葉和義、古橋大地、辻本和孝、上仲輝幸 進行：此松昌彦

【防災研究・啓発展示コーナー】被災地における教育支援、デモンストレーション、避難時間可視化システム、土砂災害発生メカニズムなど



防災・日本再生シンポジウムの会場の様子（田辺市ビッグ・ユー 研修室 1）



研究展示会場の様子（田辺市ビッグ・ユー 研修室2）

◆ワダイの防災カフェ 開催支援、広報支援

開催名：「ワダイの防災カフェ」 予約不要、参加無料

主催：和歌山大学災害科学教育研究センター・国土交通省近畿地方整備局／後援：和歌山県

会場：田辺市、那智勝浦町、広川町、和歌山市

内容：「ワダイの防災カフェ」は、日ごろから抱える自然災害や防災・減災に関する疑問・質問を、防災関連の専門家と一緒に飲み物を片手に気軽に語り合う場です。テーマは「防災教育」「防災計画」「避難支援システム」「救助ロボット」「災害事例」など多岐に渡り、和歌山大学や国土交通省近畿地方整備局、和歌山県などで働く災害関連の専門家が講師を務めた。防災関連の専門家と市民が飲み物を片手に気軽に語り合う場として、和歌山大学災害科学教育研究センター・国土交通省近畿地方整備局の主催で実施3年目。※田辺市、広川町は平成29年度より設置。

＜各会場の開催日時＞

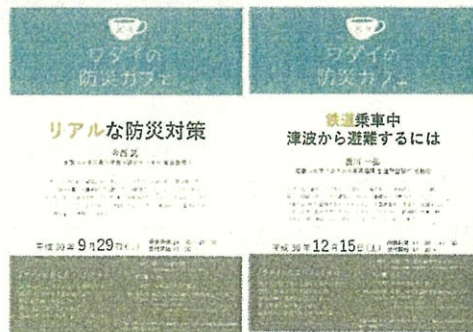
田辺市会場：田辺市消防本部（田辺市新庄町46番地の119）

開催日：1回目 平成30年9月29日（土）14時00分～15時30分

2回目 平成30年11月17日（日）14時00分～15時30分

那智勝浦町会場：和歌山県土砂災害啓発センター（那智勝浦町市野々3027-6）

開催日：1回目 平成30年12月15日（土）14時00分～15時30分



防災カフェの広報チラシ



会場（田辺市消防本部）

◆他大学と連携して、観光地の津波避難の観光客動向調査の後方支援

開催日：平成30年8月20日（月）～8月23日（木）

場所：白浜町白良浜周辺のホテル、道の駅等

担当：関西学院大学総合政策学部 照本清峰教授（元和歌山大学災害科学教育研究所所属）

関西学院大学生 約20名

題名：「白良浜観光客・海水浴客の津波避難対策支援調査計画」

内 容：本調査では、観光客・海水浴客の津波避難に関する認識、管理者側への意向を明らかにするとともに、施設管理者の責任規範の内容の認識と避難支援に関する考えを明らかにする。その上で、両者の認識の差を見いだすことによって課題を示すとともに、対応方策の検討に資する素材を得ることを目的として、学生が観光客とホテル管理者、従業員に対して聞き取りとアンケート調査を行った。聞き取り項目は、地震津波の認識、避難に対する認識、施設管理者、観光地に関する意向、要望等。この事業の現地支援、役場や経済界との事前調整に協力した。



調査の事前説明会議の様子



調査の様子（白浜町白良浜、他）



◆学内災害科学教育研究センター等の防災関連企画の広報支援、地域での情報拡散に協力

※下記チラシは、防災教育の関連で広報協力を実施した例（抜粋）



シンポジウム、体験型の企画、ジオカフェなどの告知チラシ（実施地：田辺市、那智勝浦町、串本町等）

【6】運営基盤の強化／視察受入等

6-1 大学間連携

《全国の大学教職員、コーディネーターを対象とした地域連携コーディネーターフォーラム》

和歌山大学では地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目の3点を目的に地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー、合宿型研修を毎年実施。昨年度に続き全国の国立大学、公立、私大など関係者が参加。大学と地域の連携に関する情報交流の場として実施。

◆地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー

開催名：「第7回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催日：平成30年9月13日（木）～14日（金） 主 催：和歌山大学、共催：高知大学

会 場：高知大学 朝倉キャンパス内総合研究等2階

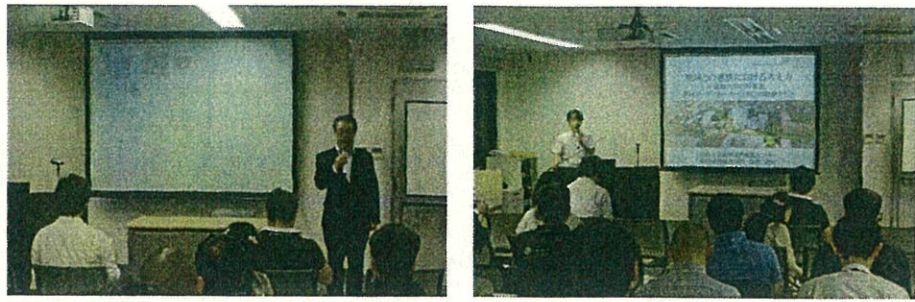
対 象：国公立大学に在席の地域連携担当コーディネーター及び担当教職員

内 容：セミナー開会挨拶（高知大学、和歌山大学）趣旨説明、事例報告（高知大学、北九州市立大学）

ワーク①②「理想の大学地域連携センターづくり」、グループ発表、共有

ワーク③「コラボレーションガイドライン」共同宣言の作成、閉会、挨拶

コメンテーター：（一社）国立大学協会専務理事・前和歌山大学長 山本 健慈氏



高知大学でのセミナーの様子

◆文部科学省 平成27年度採択 知の拠点大学による地方創生セミナーに参加

開催名：「はばたけ地方創生士！サミット」

開催日：平成30年11月13日（木）～14日（金）

主催：幹事大学 福井大学 会場：福井県民ホール AOSSA8階

対象：大学関係者、地元企業、自治体職員、学生

内容：基調講演、事例報告&パネルディスカッション。

地域を学んだ知識やプロセスを通じていずれの地域においても課題を探索、解決するポテンシャルを有し、地方創生を志向する人材として資格認定を受けた学生が「ふくい」に集結して学生が県域を越えて交流。事例発表では、秋田大学、岐阜大学、佐賀大学、富山大学、福井大学の学生が報告、鼎談やクロストークを交えて未来にむけた教育のありかたを議論した。

セミナーに参加して大学連携と地域振興についての知見を深めた。



当日会場の様子（福井県民ホール）

6-2 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

◀南紀熊野サテライト連携協議会「みらい戦略第三期計画」運用▶

「地域の知の拠点」として授業開催の機会提供だけではなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育・研究・実践の発展を目的とした『みらい戦略第三期アクションプラン』を昨年度に策定した。プラン実現のために具体的な案や指標を企画委員等と検討し、初年度の振り返りとなった。また、地域での更なる基盤強化、情報連携を進めて活動を推進するために企画運営委員や南紀熊野観光塾生、受講生、地域住民と日常的に意見交換の機会を増やして取り組みに活かした。

◆田辺市との連携：特筆

平成28年6月1日田辺市役所市長室にて「田辺市と国立大学法人和歌山大学との連携協力に関する包括協定書締結式」に真砂市長、瀧学長が出席して田辺市と和歌山大学との連携協力に関する包括協定書締結式を取り交わした。既存の取り組みに加えて更なる連携を目指すとして、この田辺市との包括連携を機に、設置された「田辺市大学地域づくり事業」を活用して、学生が田辺市にて宿泊を伴う演習を実施するための助成事業が設置され2年目となった。本学からは、年2件申請し、活動支援を行った。毎年4月に経済学部新入生研修で、新入生約300人が田辺市街地を散策する研修を受入頂いている。



連携協力に関する包括協定書締結式の様子（田辺市役所） 田辺市で文化継承の取り組みを行う学生の様子

◆新宮市・東牟婁地域との連携：特筆

平成 28 年 2 月新宮市役所にて授業開設の記者会見を行い、新宮市にて新設された「熊野郷土学」も好評で、前期、後期ともに定員を超える受講者を得て、平成 30 年度も継続して開講することとなった。和歌山大学の授業を新規開講するにあたり、連携協議会の委員の皆様には大変なご尽力をいただき開設することができた。設置科目は、2 科目延 81 名が受講。高校生の他、地域の県市町村の公務員、会社員、現役教員、歴史ガイド、ジオガイド等が受講して職務に活かし地域で活躍している。今回の設置に至っては、東牟婁振興局や新宮市周辺の自治体、地域団体の協力を得ながら、地元金融機関である、新宮信用金庫様に、社会貢献の一環で会場を無償提供いただくことで実現した。

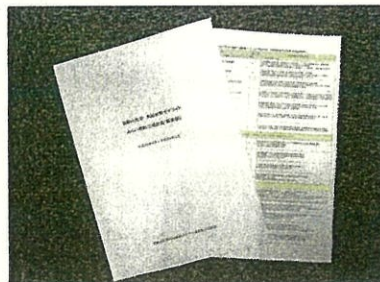


授業設置の記者会見の様子（新宮市役所仮庁舎） 新宮信用金庫で授業を受ける受講者

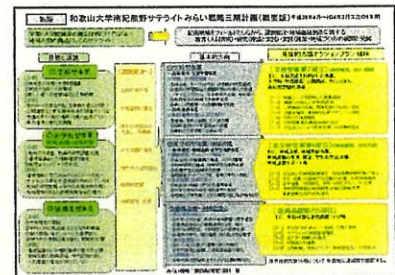
◆第三期アクションプランと交流シートの活用

開催日：通年で運用

内 容：昨年、和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会企画運営委員会にて策定された「みらい戦略第三期アクションプラン」から、南紀熊野サテライトが地域の知の拠点として、更に連携協議会企画委員等との連携を深め、日常的な情報交換を促進するための「交流シート」を設けた。会議毎の情報共有に活用することとした。（第三期アクションプランは、平成28年4月～平成34年3月末迄、6年間）各事業の重点項目、具体的取り組み例、成果指標例を設けて引き続き企画運営委員会にて年度の進捗管理を行うこととした。



策定された「みらい戦略第三期計画」



みらい戦略第三期アクションプランの概要

◆和歌山大学と株式会社南紀白浜エアポートとの包括連携

日 時：平成 30 年 12 月 6 日（木） 場所：和歌山大学

内 容：産学連携による地域活性化の推進に向けて、和歌山大学と南紀白浜エアポートが包括連携協定を締結。国立大学法人和歌山大学（和歌山県和歌山市栄谷、学長：瀧 寛和、以下：和歌山大学）と株式会社南紀白浜エアポート（和歌山県西牟婁郡白浜町、代表取締役社長：岡田 信一郎、以下：南紀白浜エアポート）は、地域や産業の発展、人材育成を目指す包括連携協定を本日締結。本協定は、両者の包括的な連携のもと、密接な相互連携と協働を行うことにより地域人材の育成を含めた地域活性化を推進することを目的とし、主に次の内容について連携・協力を行うこととした。

【包括連携協定の内容】（記者発表）

- (1) 和歌山大学による教育活動と南紀白浜エアポートによる空港事業を相互活用した実践型教育の推進に関する事
- (2) 和歌山大学の南紀熊野サテライトを活用した地域活性化活動の推進に関する事
- (3) 和歌山大学のキャリアセンターと南紀白浜エアポートの人材育成・採用活動との相互連携に関する事
- (4) その他、地域人材の育成や地域活性化に関する事



大学での包括連携協定の様子

◆日常的な地域住民や教職員等との意見交換

日 時：通年

内 容：南紀熊野サテライト周辺自治体で活動を計画している本学の教職員方や他大学の教職員の方々、地域住民や受講者の方等と日常的に意見交換を実施。ニーズの聞き取りや地域課題について意見交換を行っている。意見交換から本学教員への事業相談や、学習機会の事業化をすることも多い。

6-3 南紀熊野サテライト視察の受け入れ

〈他大学の視察の受入や学内教職員の視察受入を実施〉

他大学からの視察受け入れや研修会、シンポジウムに参加。学外の実践者との意見交換を実施。

◆関西学院大学の教員と意見交換

日 時：平成 30 年 7 月 6 日（金）、8 月 7 日（火）10 時～11 時

場 所：和歌山大学南紀熊野サテライト

来 訪：関西学院大学照本教授

内 容：紀南地域での防災活動の現状と、白浜町での観光防災の意見交換
白浜町役場、観光事業者等のヒアリングに同行

◆南紀白浜エアポート職員と意見交換

日 時：平成30年10月12日（金）13時30分～15時

場 所：和歌山大学南紀熊野サテライト

来 訪：南紀白浜エアポート2名、帯野元理事

内 容：紀南地域における南紀熊野サテライトの教育研究活動の現状等の意見交換。
観光事業者へのヒアリングに同行

6-4 会議運営、その他 ～和歌山大学の最前線拠点として～

《各種の会議運営や、和歌山大学・南紀熊野サテライトの情報発信を実施》

①オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の会議運営を実施。

②和歌山大学の全学の最前線拠点&報拠点として、大学案内・入試案内・各種大学事業、地域情報提供を実施するとともに南紀熊野地域の「知の拠点」として、教育研究事業への参画・連携、情報発信等の諸活動を実施。教育研究事業の地域での成果報告や活動成果の情報発信を実施。

和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会みらい戦略第三期計画アクションプランを基に事業実施と事業の進捗管理を行っている。



連携協議会企画運営会議

以上

あしがき

本年度もサテライト事業の展開、企画遂行にあたり、地域連携事業が多岐にわたり、皆さまのご支援のもとで様々な成果に繋がりました。これらは大学やサテライトだけで達成できるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、連携協議会の皆様をはじめ関係者の皆様の手厚い支えがあって実施されたものです。皆様に厚く御礼を申し上げます。

今後も「地域と融合する大学」の実践に向けて、様々な取り組みを実施いたします。

和歌山大学南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2018年度
2019年(平成31年)3月発行

国立大学法人 和歌山大学 南紀熊野サテライト
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9-102
和歌山県立情報交流センターBig.u内
TEL : 0739-23-3977 FAX : 3978
E-mail : nankuma@ml.wakayama-u.ac.jp
H P : <http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/>

2018年度（平成30年度）

広報資料

募集要項、チラシ、パンフレット

平成30年4月～平成31年3月配布分